

全国福祉高等学校長会主催  
平成28年度 第1回 社会福祉・介護福祉検定

# 3 級 問 題

(50分)

◎指示があるまで開けないでください。

## 注 意 事 項

- 1 解答用紙への受験番号等の記入  
解答用紙に、受験番号、学校名、クラス、氏名を記入してください。
- 2 試験問題数は150問です。解答時間は50分です。
- 3 解答方法
  - (1) 各問題について、正しい文章であれば○、間違っている文章であれば×を解答欄に記入してください。
  - (2) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。
- 4 その他の注意事項
  - (1) 印刷不良やページが抜けている場合は、手を挙げて試験監督の先生に連絡してください。
  - (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。



H28 3級

問題番号	問 題
1	共助とは、人々が助けあって対応するしくみである。
2	公助とは、生活保護や児童福祉をはじめ、公的機関によって支援されることをいう。
3	介護福祉士は、生活上のニーズを持つ人の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、関係者との連絡調整等を行うことが業務である。
4	日本介護福祉士会は、1995年に倫理綱領を定めている。
5	介護の日は、11月11日である。
6	日本国憲法第14条第2項には、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と規定されている。
7	生活が持つ4つの原理のうち「主体性の原理」とは、一人ひとりが生活の主体であり、生活上の問題は、その問題を抱えている本人の立場からとらえられるべきであるという考え方である。
8	ユニットケアとは、少人数の生活単位（ユニット）で個別ケアを実現するための手段である。
9	利用者本位の介護サービスを提供するために、利用者と介護従事者が協働関係である必要はない。
10	「自律」とは、他者の助けや支配なく、自分ひとりの力で行動することをいい、「自立」とは、他者の助けや支配を受けず、自分の行動を自分の立てた規律に従って正しく規制することである。

## H28 3級

問題番号	問 題
11	バイステックの7原則は、対人援助に従事する人の基本姿勢を示したものであり、自己決定の原則は含んでいない。
12	ボディメカニクスの原則により、支持基底面積を広くすることで、重心の位置が上がり安定する。
13	男性は、排せつ時に尿が後ろに回ることを配慮して、後ろ部分に尿取りパッドや紙おむつを重ねて厚くする。
14	2008年の実態調査において、福祉介護分野での就労継続の意向については、給与や労働条件等に不満をもちながらも働き続けたいと約8割の人が答えた。
15	支持基底面積とは、利用者のつま先と介助者のつま先を結んだ円である。
16	OJTは、通常の業務を一時的に離れて行う教育訓練である。
17	介護を必要とする人々は、生活が不自由になると、その人の本質までも変わることがある。
18	介護実践においては、さまざまな心身の状況に応じて個別化し応用する力が求められている。
19	介護従事者は介護実践を通して、自分自身の態度にいつも気を配ることが大切である。
20	観察したことを他の人に伝える時には、観察した事実だけでなく、自分の解釈を入れながら伝えることが大切である。

## H28 3級

問題番号	問 題
21	杖歩行の際、介助者は、利用者の患側に立ち、リズムをとって、杖→健足→患足の順に歩く。
22	臥床状態での食事介助では、利用者の上体を90度くらい上げ、頭を高くして顔を横に向ける。
23	下行結腸の人工肛門では、便は形をなしていないがかなり固まっており、排便回数はやや少ない。
24	介護を通じたコミュニケーションは、信頼関係（ラポール）形成の基盤であるが、介護の質の向上につながるとは限らない。
25	介護過程にもとづく個別ケアの提供は、利用者の受容から始まりさまざまな介護の価値を実現する基盤となる。
26	ケアマネジャーは、年に1回利用者宅を訪問して状態を確認する「モニタリング」を行う。
27	要支援と認定された場合は、介護老人保健施設に利用申込みをする。
28	短期入所（ショートステイ）とは、要介護高齢者などが一時的に介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）等を利用するサービスである。
29	軽費老人ホームのB型は、自炊を基本にしている。
30	軽費老人ホームは、65歳以上の人で、「環境上の理由」および「経済的理由」で在宅での生活が困難な高齢者が入所する施設である。

## H28 3級

問題番号	問 題
31	2014年4月より、障害程度区分から障害支援区分になった。
32	同行援護とは、知的障害や精神障害のために行動が大変困難で常時介護が必要な人に対し、外出時における移動中の介護を行うサービスである。
33	施設入所支援とは、施設に入所する人に、主に夜間入浴、排泄、食事の介護などを行うサービスである。
34	介護支援専門員は、保健・医療・福祉の分野の国家資格を持ち、実務経験3年以上の人が受験できる。
35	介護支援専門員を通称としてケースワーカーと呼んでいる。
36	介護福祉士は、要介護者やその家族などからの相談に応じ、介護サービス計画（ケアプラン）を作成する。
37	社会福祉士は、精神科領域の相談援助職であり、認知症高齢者やその家族に対する相談援助が期待されている。
38	「社会福祉士及び介護福祉士法」第47条において、社会福祉士及び介護福祉士は、その業務を行うに当たっては、医師その他の福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。
39	わが国の社会保障給付費を「年金」、「医療」、「福祉その他」という3部門別の推移で見ると、現在は「年金」が最も多い。
40	社会福祉サービスには、家庭や地域社会での生活を支援する施設福祉サービスがある。

H28 3級

問題番号	問 題
41	児童の虐待，児童養護，障害児など子どもに関する相談を行うのは児童相談所である。
42	身体障害者手帳は，身体障害者福祉法で定める障害の範囲にある人に，市町村長が交付するものである。
43	肢体不自由者は，心臓，腎臓，呼吸器，膀胱，直腸，小腸，肝臓，免疫機能に障害のある方をさす。
44	障害支援区分の認定には，医師の意見書が必要である。
45	ピープルファーストは，「自分たちは，障害者である前に人間である」という言葉を掲げている。
46	うつ病は，抑うつ状態になり，元気が出ない，意欲や活動性が低下する，不眠，食欲が低下するなどの症状がある。
47	ソーシャル・インクルージョンとは，少数の人々を排除せず，共にあるべきとするヨーロッパの考え方である。
48	要介護認定は，要介護1～5，要支援1～5で認定される。
49	認知症の原因となる疾患として，65歳以上ではアルツハイマー病が最も多い。
50	法定後見制度には，補助・保佐・後見がある。

## H28 3級

問題番号	問 題
51	援助関係は、援助者と利用者との信頼関係に基づく人間関係なので、専門的な知識や技術は必要ない。
52	コミュニケーションにはサービス利用に関する情報等を利用者に伝える役割もある。
53	コミュニケーションには、言語的コミュニケーション（バーバルコミュニケーション）と非言語的コミュニケーション（ノンバーバルコミュニケーション）がある。
54	介護を行う上での目的は、介護職従事者が理解することが重要で、利用者とは共有する必要はない。
55	高齢者や障害のある人の心理的な特質を理解することが、利用者を理解する上で必要である。
56	話しかけても反応がない利用者に対しては、必要以上にコミュニケーションをとる必要はない。
57	心身の障害やその他の理由でコミュニケーションのとり方が難しい利用者に対しても、身振り手振りなどあらゆる方法を使ってコミュニケーションを取る努力をするべきである。
58	コミュニケーションをとる上では、利用者の不安を理解し、安心感を与えるように心がけることが大切である。
59	傾聴では偏見や先入観を持たず、利用者の話を好意と関心を持って聞き、理解しようとする態度が大切である。
60	コミュニケーションでは、利用者が言葉で表す言語的コミュニケーションから相手の気持ちを考えればよい。



## H28 3級

問題番号	問 題
61	加齢とは、生まれてから死ぬまでの全生涯の変化をいい、衰退のみを意味するものではない。
62	エリクソンは、ライフサイクルを乳児期から老年期までの5段階に分けた。
63	高齢者では、病気に対する反応のしかたが若者とは異なり、症状や経過が定型的である。
64	流動性能力とは、新しいことがらを覚える能力、計算、暗記などの学習能力のことをいう。
65	加齢により内向的、頑固、慎重になるといわれ、高齢者自身の自己概念の評価は、低下する場合が多い。
66	世界保健機構（WHO）、老人福祉法などでは、60歳以上を高齢者としている。
67	加齢と共に血管壁が厚くなり始め、弾力が減少し硬くなり、高血圧になる傾向がある。
68	加齢による腸蠕動の低下で下痢が生じやすい。
69	脱水の症状として口唇や皮膚の乾燥があるが、進行すると全身倦怠感や眠気が見られる。
70	高齢者はひとつの病気にかかると、心身の衰えと共に他の病気も起こしやすくなる。

## H28 3級

問題番号	問 題
71	1994年12月には新ゴールドプランが策定され、グループホームやデイサービスなど在宅を基盤としたサービスの充実がはかられた。
72	1970年代、施設や病院では、認知症高齢者に対して身体の抑制・拘束、過剰な薬による抑制、言葉による暴力も行われていた。
73	パーソンセンタードケアとは、世界的に大きな影響を与えた認知症のケアの理念であり、その人を中心とした介護をさす。
74	1989年12月に高齢者保健福祉推進十か年戦略（通称ゴールドプラン）が策定され、保健福祉サービスが計画的に整備され始めた。
75	後期高齢者の増加とともに認知症高齢者の数の増加が予想されているが、とりわけ脳血管性認知症の増加が予想されている。
76	正常な物忘れは、次第に悪化し、行為の全てを忘れてしまうことが多い。
77	認知症の原因となる病気はいくつかあるが、約50%以上がアルツハイマー型である。
78	地域包括支援センターは、2000年に創設された。
79	「地域包括ケア」は、都道府県が運営主体となり、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるためのサービス支援システムをつくることである。
80	認知症サポーターは、地域の団体や市区町村で養成講習を修了した人が、「認知症になっても安心して暮らせるまち」の実現を目指して活動するボランティアのことである。

H28 3級

問題番号	問 題
81	レビー小体病は、脳の全体にレビー小体という異常な物質が沈着して起こる。
82	認知症になると、脳の器質的な障害が基礎として認められるようになるため、今まで行ってきた仕事や行動、日常生活を一定のレベルに保つことが難しくなる。
83	小規模多機能型居宅介護事業所の「泊まり」は、「訪問」の利用者も利用することができる。
84	記憶障害があっても、周辺症状への対応により生じる不安や怒り、喜びや満足などの感情は保たれるため、認知症を理解した介護が重要となる。
85	回想法とは、認知症に効果があるとされているケアの一つであり、人生の歴史や思い出を、受容的共感的な態度で聞くことを基本姿勢とする。
86	1981年の国際障害者年のテーマである「完全参加と平等」に代表される障害者福祉の理念が発展するなかで、1993年12月に障害者基本法が成立した。
87	バンク＝ミケルセンにより、ノーマライゼーションの8つの原理が公表された。
88	エンパワメント・アプローチとは、従来の病気や障害に着目した援助から、健康な部分や可能性に着目し、抑圧的な環境を改善することによって、本人自身が自らの課題に気づき、主体的に解決策を見いだしていく支援方法である。
89	リハビリテーションという言葉は、中世のヨーロッパにおいて教会から破門された人々が再び名誉を取戻したことに由来し、人間の持つ権利・尊厳・名誉などが傷つけられた人に対し、それらを回復する全人的復権という意味がこめられている。
90	視覚障害とは、視力（ものの形を認識する力）がない、あるいは、十分な視力がない、視野（見える範囲）や色覚（色を見分ける力）、眼球運動（視線を移動する力）に障害がある場合をいう。

H28 3級

問題番号	問 題
91	発音がうまくできないことを吃音という。
92	肢体不自由の原因は、交通事故やスポーツなどの外傷によるものと、脳血管障害や骨関節疾患およびリウマチ疾患などの疾病によるものがある。
93	精神障害の要因は、外因性、心因性、内因性に分けられる。
94	難病は、①運動神経系のもの（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、筋ジストロフィーなど）と、②内臓・皮膚・血液系のもの（全身性エリテマトーデス、悪性関節リウマチなど）に大きく分けられる。
95	18歳未満の知的障害児は児童福祉法の対象となっており、就学後の段階では、早期療養を目的とする児童福祉法による通所の施設を利用することが多い。
96	高次脳機能障害者にも、状態により精神障害者保健福祉手帳が交付されるようになった。
97	生まれつき、あるいは幼い頃に障害を持っていても成長過程において心身の発達に影響を及ぼすことはない。
98	レスパイトには、支えるという意味が込められている。
99	身体障害者更生相談所は、専門的な知識や技術が必要な相談、医学的・心理学的・職能的判定・補装具の処方や判定を行うために、都道府県が設置している。
100	精神疾患の患者が入院できる病床（精神病床）の数は、1993年をピークに減少傾向にあるが、日本の精神病床数は諸外国に比べて圧倒的に多く、また入院期間も非常に長いことが特徴である。

## H28 3級

問題番号	問 題
101	生命を維持するためには、からだの内部の環境はほぼ一定に保たれる必要がある。そのはたらきを恒常性（ホメオスタシス）という。
102	大脳には、運動・感覚・言語・記憶・意思・思考・判断などの人間らしく生きていくうえで必要な機能があり、それらは特定の部位に分布している。
103	脳は、頭(頭蓋骨)の中にあり、神経細胞と神経線維の集まったやわらかい組織で、大脳・間脳・中脳・橋・延髄・小脳で構成される。
104	自律神経は生命維持に必要な循環、呼吸、消化、排せつなどの機能を無意識に調節する神経系で、交感神経と副交感神経に分けられる。
105	骨格筋はからだを動かす筋肉であり、自分で動かすことができる随意筋である。
106	心臓は、胸部の縦隔中部の右側に位置する約270gの臓器である。
107	食道の手前には気管があるが、食塊や唾液が気管内に入り込まないように、食塊は舌で口腔の奥に送られ、嘔吐反射によって咽頭から食道に送られる。
108	気管と気管支のなす角度が左側のほうが浅く、左側の気管支の内腔が太いため、気管に入った異物は左側の気管支に入りやすい。
109	水晶体によって集められた周囲の物体の像は角膜に映し出される。
110	ホルモンは体内の特定の部位にある内分泌腺より分泌される物質で、血液中に放出される。

H28 3級

問題番号	問 題
111	尿道は腎臓で生成された尿を膀胱に運ぶ管である。
112	血液は、赤血球、白血球、血小板、血漿などの有形成分でできている。
113	爪は1日に約1cmずつ伸びる。
114	唾液は1日に約1ℓ分泌され、食塊形成、消化、口腔の自浄作用がある。
115	長座位とは、下肢を伸ばし、股関節を直角に曲げた状態の座位であり、膝は多少屈曲する。
116	咽頭期（嚥下第2相）で気道を閉鎖するのは軟口蓋である。
117	人間のからだの約60%は体液で、その体液量が減少した状態を熱中症という。
118	尿失禁とは、自分の意思に関係なく尿がもれることである。
119	排泄物や吐物で汚染された床は、手袋をして70%のアルコールで清拭する。
120	PTSD（心的外傷後ストレス障害）は、こころに受けた衝撃的なできごとがもとで生じるさまざまなストレス障害をいう。

H28 3級

問題番号	問 題
121	アンペイドワークには、「家事」，「育児」，「家庭内介護」などが含まれているが，「地域活動」や「PTA活動」などは含まれていない。
122	高齢になるにつれ，唾液や膵液の分泌量が減少し，消化吸収力が弱まる。
123	ゴミの分別法は国で統一されている。
124	循環型社会形成推進基本法では，ゴミ処理の優先順位が5つ表されており，そのうち3つを3Rという。
125	生活にメリハリをつけ，身仕度を整えることは，健康的で，社会的な生活を営むうえで欠くことのできない行為である。
126	片麻痺がある場合の上着の着脱は，健側から脱ぎ患側から袖を通す。
127	移動動作は，日常生活活動にとって重要な意味を持っており，社会生活行為に直結しているため，生きがいや生活のうるおい，楽しみを実現させるためにも欠くことができない。
128	よいボディメカニクスは，身体的特徴が十分にいかされ，無理なく合理的に利用できる状態であり，介護行為の基本となる。
129	安全で安楽に人を支持するには，手のひらを中心にして指の第一関節より下の部分を使って支えることが利用者の安楽につながる。
130	杖歩行介助の際，介護者は，利用者の健側の一步前に立ち腋窩を支える。

## H28 3級

問題番号	問 題
131	誤嚥は、食べ物が食道に入らず、気管や肺に入ってしまうことである。むせて咳き込むだけでなく、窒息、肺炎など生命にかかわる事故や病気につながる。
132	アイスマッサージは、氷水に漬けて水気を切った綿棒で口腔内をさわって刺激することである。
133	誤嚥を防止するには、安全な食事姿勢、義歯の適合、誤嚥しにくい調理内容、食べ方の工夫、利用者に合った一口量や食べるペースなど細かい配慮が欠かせない。
134	脱水傾向があるかどうかは、唇や舌などの乾燥状態や発汗量をもとに確認し、一日の必要水分を知り、その量を十分摂取するように工夫する。
135	入浴や清拭などの介護は、からだを洗う行為や拭く行為だけで、設備や温度・湿度などの環境を整えることや、必要物品の準備などは含まれない。
136	洗髪の介助の注意事項で、「髪がぬれていると熱が逃げて寒さを感じるため、洗髪後は十分に乾かす」ことが挙げられている。
137	褥瘡があっても、防水フィルムなどで保護して入浴する必要はない。
138	排尿や排便の行為は、普段の生活のなかで尿意や便意を知覚することから始まる。
139	膀胱内に300～450mlの尿がたまると尿意を感じ、排尿のための行動をとる。
140	強い尿意切迫感があり、こらえきれずに尿が漏れることを腹圧性尿失禁という。



## H28 3級

問題番号	問 題
141	弛緩性便秘は、腸の便を送りだす力やいきみの力が弱いために起こる。
142	下痢の回数が多いと水分・電解質の喪失が著しくなり脱水症状を起こす可能性があるため注意を必要とする。
143	和式便器は、安定感があり容量が大きく深い。また、差しこみ部分が広く、体格のよい人に向いている。しかし、差しこみ部分に高さがあるため、腰が上がらない人には向かない。
144	睡眠は、脳波のパターンにより、レム睡眠とノンレム睡眠があり、レム睡眠は60分ごとに現れるといわれている。
145	就寝前に、交感神経を優位にするためにぬるめのお湯（38～40℃）にゆっくり入ることも有効である。
146	圧迫により赤みがかかった皮膚が、体位変換後30分経過してもとれない場合は、褥瘡の初期段階とも考えられるため、医師や看護師に報告する必要がある。
147	夜間せん妄が続く期間は、一人ひとり異なるが、2、3日から1週間程度続くこともある。
148	レクリエーションの意義は、いきいきと楽しく人生を充実させて生きるという人間性の回復・再創造を目的とすることととらえられている。
149	レクリエーション活動では、いつも利用者が本当に楽しめたか観察・評価し、活動内容を発展させていくことが重要である。
150	レクリエーション活動において楽しく計画を進める援助は、盛り上げることではない。個々人を細かく観察して、全員がそれぞれに楽しめる場を設定していくことである。

受験番号	3級解答						学校名						
クラス	年	組	番	氏名									

	解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄
1	○	11	×	21	×	31	○	41	○	51	×	61	○	71	○	81	○	91	×
2	○	12	×	22	×	32	×	42	×	52	○	62	×	72	○	82	○	92	○
3	×	13	×	23	×	33	○	43	×	53	○	63	×	73	○	83	×	93	○
4	○	14	○	24	×	34	×	44	○	54	×	64	○	74	○	84	○	94	○
5	○	15	×	25	○	35	×	45	○	55	○	65	×	75	×	85	○	95	×
6	×	16	×	26	×	36	×	46	○	56	×	66	×	76	×	86	○	96	○
7	○	17	×	27	×	37	×	47	○	57	○	67	○	77	○	87	×	97	×
8	○	18	○	28	○	38	○	48	×	58	○	68	×	78	×	88	○	98	×
9	×	19	○	29	○	39	○	49	○	59	○	69	○	79	×	89	○	99	○
10	×	20	×	30	×	40	×	50	○	60	×	70	○	80	○	90	○	100	○

①1～10の得点	②11～20の得点	③21～30の得点	④31～40の得点	⑤41～50の得点	⑥51～60の得点	⑦61～70の得点	⑧71～80の得点	⑨81～90の得点	⑩91～100の得点
----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------

	解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄
101	○	111	×	121	×	131	○	141	○
102	○	112	×	122	○	132	○	142	○
103	○	113	×	123	×	133	○	143	×
104	○	114	○	124	○	134	×	144	×
105	○	115	○	125	○	135	×	145	×
106	×	116	×	126	○	136	○	146	○
107	×	117	×	127	○	137	×	147	○
108	×	118	○	128	○	138	○	148	○
109	×	119	×	129	○	139	×	149	○
110	○	120	○	130	×	140	×	150	○

⑪101～110の得点	⑫111～120の得点	⑬121～130の得点	⑭131～140の得点	⑮141～150の得点
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

①から⑮の合計

  
  
  

/